

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループ1)

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	令和 5年 9月 14日	開設年月日	平成 15年 9月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の名称にも入っている「ゆっくり たのしく なごやかに」をモットーに住み慣れた自然豊かな環境のもと、鳥海山に見守られ川や田園風景に包まれ、その人らしく過ごして頂く事を心掛けています。利用者様の生活リズムに合わせてリビングで職員含め過ごし、何でも話し合える楽しい雰囲気でも過ごしております。また、食にもこだわり、経営者宅で栽培している自家米や野菜の使用、山菜等も採取して季節を感じながら安心できる食材を提供し、食事の際には職員と利用者様が同じテーブルで同じものを食べ、同じ気持ち同じ家族として生活しています。経営者は看護師であり直ぐ隣接して住んでいる為、緊急時にも迅速に対応できる体制が出来ています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年も施設長の田んぼから美味しい米が届き、利用者の食卓はもちろん職場や関係者にも振る舞われ喜ばれています。看護師でもある施設長が利用者や職員の心や体調面を支え、介護度が高くなっても速やかな対応と助言でホームでの暮らしが継続できるよう支援しています。利用者ではできることを仲間同士助け合いながら、職員は利用者一人ひとりに声を掛け、歌ったり踊ったり皆が笑顔になれる楽しみ事を提供して毎日を「なごやか」に暮らしています。設立当初からの職員も定着しており利用者・家族等からの信頼も厚く、職員間の良好な関係がより良い介護に繋がっています。地元の利を生かし、これからも地域に根付き地域と共に歩みを進めている地域密着型の事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 10月 11日	評価結果決定日	令和 5年 10月 27日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町でなじみの関係を作る、出来る事を大切にして、その人らしい生活を支援しています。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策もあり、外部との接触は控えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の方々に、認知症の理解を深めて頂けるよう説明し、またケアについてアドバイスさせて頂いています。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のために、主に施設内会議の報告や少人数での開催となっています。施設での活動を報告し他施設での取り組みを参考にしながら、施設内で活かしています。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席、行政窓口にて介護サービスの情報、手続きを相談したり、新型コロナウイルスに関する情報の共有化に努めています。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	定期的なカンファレンスを行い、情報を再確認、共有しています。拘束する事無く鈴など身の回りにあるもので対応しています。	身体拘束適正化検討委員会は職員全員が委員となって定期的開催し、指針にある「介護職員としての心得」を確認すると共に、自分や家族の身になって不快な思いをさせない介護を心掛けている。起こりうるリスクは連携した見守りと話し合いで回避に努め自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的カンファレンスを行い、問題を確認、情報共有しています。	職員は申し送りノートに気になることや注意が必要な案件を載せて皆で検討し、不安や困りごとは看護師でもある施設長からの助言や仲間の支えで解決して基本的ケアに努めている。また社会的に問題になった事例を勉強会に取り入れて話し合い意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の支援員制度を利用しています。また、定期的に制度について勉強会を開催しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分からない点を訊きながら、丁寧に説明しています。わかりやすい言葉で時間が長くなり疲れないように配慮しています。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	親しみやすい雰囲気を心掛けています。事務連絡時や来所時など意見を伺い、必要あればカンファレンスを開催し推進会議等で報告しています。	何でも話してくれる利用者が多く、やりたいことや食べたい物など要望はできる限り叶えている。家族等には電話で受診結果や近況をまめに報告して情報を共有し、利用者とも電話で話してもらい安心を届け、要望等はサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的または、随時会議を開き、意見・要望を話し合っています。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況、努力など把握し、具体的な目標などを話し合う事もあります。	施設長が毎日職員に声を掛け、上司として、また看護師として職員の努力や心身の状態を把握し処遇や体調面に配慮している。設立当初からの職員も多く何でも相談しやすい職場環境にあり、目標をもって研鑽を積みながら働いている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症対策により外部の研修は困難な状況となっていますが、定期的な内部研修の実施、働きながらスキル向上となるようなアドバイスをしています。	自己目標は自分で評価し職員同士が見られるファイルに綴り、互いのスキルアップに繋げている。年間計画で内部研修・勉強会を実施し、施設長や職員（交替制）が講師となって「認知症ケア」「介護技術」などを学び事業所全体の質向上を図っている。	充実した内部研修を実施しているので、研修後は職員から感想や意見を提出してもらい習熟度を図りながら、より理解が深まることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策という事もあり、同業者との交流は困難な状況となっておりますが、感染症対応など情報を共有し業務に活かしています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個的に話す機会を設け、話しやすい雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の疑問や不安な点等にきちんと応えられるように、資料の準備やサービスに関する情報などを事前に確かめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と何度も話し合っています。その時に必要とする事、今後必要とされるであろうサービスの事について話し合います。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を考慮し、共に生活している気持ちをもって日々を過ごしています。	洗濯物干しや皿洗いなど皆で一緒に助け合いながら作業して、感謝し感謝される関係を築いている。入居前の情報から、役職にいた方、先生だった方、商売していた方などその方にふさわしい呼び方で活躍の場を提供し、共に支え合いながら暮らしている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご本人に対する思いを聞き取り、ご本人の介護に活かしています。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策もあり面会の頻度は減少しましたが、面会の要望あれば感染症対策しながら面会して頂いています。また、電話を多く活用し馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	利用者の馴染みの方から野菜などの差し入れもあり、自身で礼の手紙を書いて送ったりしている。面会も感染症対策をして行われており、コロナ前の交流が戻りつつある中、施設長はじめ職員が地元出身で地域に密着した関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、関係性を把握しレクリエーションや会話を通して孤立しないよう心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった場合においても、必要なサービスはご本人、ご家族の相談に応じ支えになれるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の要望をプランに反映出来るよう努めています。表現が困難な方にはご家族の情報をもとに希望を探る努力をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	育った環境、生活歴、価値観、性格を把握し、その人らしく居心地の良い生活の実現に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の心身の状況に合わせて、観察して残存機能の把握に努めています。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いに近づけた介護計画の作成に努めています。大きな変化が見られた場合はカンファレンスを開催し現状に合った介護計画の作成に努めています。	更新時に合わせて夜勤者以外の職員全員でケアプラン評価会議を開き、計画作成担当者の経過記録をもとに意見を出し合いサービス内容を検討している。利用者の意向を最優先に家族等とは電話で状態報告や意見交換をして介護計画に反映させている。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態変化等、細かく記載した経過記録簿を全職員が把握出来るようにしています。	日々の気づきや変化、受診結果、要観察の方の注意事項などは在勤の職員が経過記録簿やホーム日誌、申し送りノートを活用して記録し共有を図っている。出勤時に必ず目を通して利用者の状態を確認しサービスに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の精神、身体、生活状況を聞き取り、必要であれば行政や他事業所と連携をとりながら必要と思われる支援が実施できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の出張理容を依頼したり、三味線、踊り、唄などのボランティアの受け入れで利用者様の楽しみになっていたが、新型コロナウイルス感染症対策もあり困難となっています。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医としています。受診時はご家族または職員が付き添っています。職員受診後は報告し、受診結果をご家族と共有しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	代表者は看護師であり利用者様の状態変化を24時間迅速に伝える事が出来ます。緊急時にも早めの指示、対応を受けられます。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関との連携、情報交換を行っています。また、ご家族とも話し合い、心理的負担の軽減に努めています。	入院時はADL(日常生活動作)調査票で医療機関に情報を提供している。家族等や病院の相談員から入院中の様子を聞き取り、ADLに変化がなければ1ヶ月を目途にホームで受け入れており、入院継続やその他の施設への移動など本人にとってより良い生活の場を親身になって話し合い支援している。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化の場合、終末期の対応などご本人、ご家族とも話し合い出来る事と、出来ない事を理解して頂いています。また、主治医にもその意向を伝え連携を図りより良い選択が出来るよう支援しています。	入居前の説明に沿って、傾眠傾向がみられ食事の経口摂取ができなくなるなどの状態になった時は主治医と相談しながら家族とその後の方針を検討し、ケアでき得る限界まで対応している。入院や他施設利用も提案し申請時には書類記入の支援も行い、滞りなく移動できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成しています。また、代表者の看護師より対応の訓練や指導を受けています。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種の災害に備えた避難訓練、緊急連絡訓練を年2回実施しています。	利用者も参加し消火器取り扱いも含めた避難訓練を実施し、終了後に感想を聞きその内容と対策を回覧し、職員会議でも話し合っている。地区には災害時の支援を依頼し、利用者の歩行状態など必要な情報を記した平面図を事務室内に掲示し、災害に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護、守秘義務などは、事業所の理念であり職員全員が徹底しています。尊厳に配慮した丁寧な言葉掛けを心掛けています。	利用者の生活歴を尊重しその方が就いていた職業などの呼び名を使い、ハーモニカが得意な方は歌の伴奏や飲食店経営をしていた方の食器洗いなど、特技を活かし自分らしく暮らせるよう支援している。入浴は同性介助を心掛け、1対1の会話で本音が聞けることもあり、プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを汲み取る事が出来るよう、声掛け、質問を工夫しています。また、筆記など非言語コミュニケーションにも努めています。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の暮らしやその人なりの生活の思いを聞き取り、可能な限り尊重して実現に努めています。	利用者にも無理のない時間や内容でゲームや懐かしの歌などを皆で楽しみ、天気の良い日は散歩がてら施設長宅でお茶飲みをするなど、一人ひとりの楽しみ事を大事にしている。山菜の下処理や食べ方など生活の知恵を職員に伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方は、ご本人の入所前の生活や現在の好みや思いを汲み取り、衣服や日用品の購入を行なっています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の好みのメニューを取り入れ、嚥下機能を考慮し食事形態を工夫しています。利用者様の残存機能を活かしながら配膳、皿拭き等手伝って頂き、一緒に食事をとっています。	代表者の田畑で採れた米や野菜を使い毎食職員の手料理が提供され、誤嚥に注意して食事に専念できるよう職員が見守り、同じものを一緒に食べている。行事の際の手作り松花弁当や赤飯などのお楽しみメニューもあり、安全で多彩な食事内容となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の各チェックの実施。それぞれの状態を確認し、職員、看護師で話し合い見守り、介助を行っています。決められた時間に提供するだけでなく、利用者様に合わせて摂取して頂く等、柔軟に対応しています。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアを確認し、見守りや介助を行っています。	食後の声掛けで自力で歯磨きをする方が多く、難しい方はスポンジブラシなども利用してやさしくケアし、義歯は夜預かり消毒して朝本人に渡し清潔を保っている。運動の時間にはパタカラ体操も行い、誤嚥防止や咀嚼力向上を図っている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用。適時に声掛けトイレ誘導を実施しています。夜間は身体機能に合わせ、必要な方はポータブルトイレを利用し、自立排泄の支援に努めています。	自立排泄の方も多く、結果は本人に聞いて排泄チェック表とバイタルチェック表に記録し健康状態を確認している。一人ひとりのパターンに合わせた声掛けや夜間のポータブルトイレ利用などでおむつ利用の方も無く、トイレ排泄を大事にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など植物繊維の多い食材の提供や体操などで、腸の働きに良い刺激を与える工夫をしています。主治医と相談し便秘薬の処方も行っています。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様個々の希望を考慮し、入浴日が偏らないようにしています。また、その日の体調により半身浴、足浴、シャワー浴などの対応も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人へ確認しながら就寝や起床介助を行っています。日中も体調や希望に合わせ、遠慮なく休息できるように対応しています。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報の確認、また、申し送りノートを活用し薬の共通理解を行っています。服薬時は声を掛け合い、利用者様自身にも確認してもらい、服薬後の見守りも行っています。	職員対応の受診後は処方箋を薬局にファックスし一包装した薬を届けてもらい、薬保存容器を朝・昼・夕で色分けし、服薬時は複数の職員で確認するなど工夫して誤薬防止している。看護師が薬の説明をする事もあり、服薬後の変化に注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の残存機能に合わせ、洗濯物たたみや食後の片付けなど出来る事をして頂いています。それぞれの好きな事、音楽やゲームなど楽しみのある生活の支援に努めています。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策により人が多い場所などへの外出は控えて頂いています。希望あれば散歩やドライブなどで気分転換を図れるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方には、少額の所持金を持ってもらい管理して頂いています。困難な方は事務所に管理し、必要な物は代行して購入させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、いつでも電話の使用や手紙の投函が出来るようにしています。電話や手紙の宛名書きなど希望により支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者様に合わせた温度、湿度の管理。光の刺激、照明の配慮も行っています。ソファや椅子などの配置や季節を感じさせる飾り付けをし、居心地の良い場所となるよう努めています。	利用者には自由に過ごしてもらっているが、自然にリビングに集まり将棋を指す方や歌や体操で盛り上がり、時には職員も歌ったり踊ったり楽しく過ごしている。利用者同士の関係に配慮した食席や動線に物を置かず転倒を防止し、適切な温湿度管理や空気の入替えで感染予防に努め、安全で居心地良い空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話や気の合う利用者様同士と一緒にいられるよう配慮し、適度な距離をとる事が出来るような配置を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り家具や寝具は、ご本人の使い慣れた物を使用して頂いています。配置はご本人の好む場所でご家族との写真や思い出の小物なども飾られています。	ベッド・クローゼットを備え希望によりタンスも提供し、寝具や家具などは使い慣れたものを持ち込んでもらい、利用者の好みに合わせて配置している。家族の遺影に毎日水とご飯を供えてお参りする方やカレンダーに印をつける事を日課にしている方、趣味の生け花を飾る方など、その人らしい暮らしを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、脱衣所、浴室には手すりを設置し、転倒の防止など安全に移動出来るように配置しています。各居室やトイレには表札を付け迷わないような工夫をしています。		